

平成30年11月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成30年11月20日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	13時00分	
	閉会	13時30分	
3 出席委員	教 育 長	菅 野 和 良	
	委 員	藤 原 佳 代 子	
	委 員	石 井 希 典	
	委 員	妹 尾 直 人	
	委 員	片 山 美 香	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	安 田 充 年	教育次長	三 宅 泰 司
次長 (教育総務部長兼務)	吉 實 達 男	学校教育部長	岡 林 敏 隆
生涯学習部長	重 松 浩 二 郎	参事 (教育企画総務課長事務取扱)	村 田 守
教育施設課長	板 野 正 博	指導課長	松 岡 和 俊
指導課教育支援担当課長	服 部 道 明	岡山っ子育成局子育て支援部 こども企画総務課長	出 原 晋 一 郎
岡山っ子育成局子育て支援部 地域子育て支援課課長補佐	黒 瀬 格	岡山っ子育成局保育・幼児教育部 幼保運営課長	疋 田 洋 一
事務局 (教育企画総務課課長補佐)	生 田 裕 宣	事務局 (教育企画総務課係長)	松 原 琢 磨
5 議題及び結果			
なし			
6 教育長等の報告 [平成30年10月13日 (土) ~平成30年11月9日 (金)]			
10/13~14	自然体験リーダー養成講座 step3①	地域子育て支援課	
10/16	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	
10/17	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	
10/18	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課	
10/22	教育長学校訪問	教育企画総務課	
10/22	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課	

10/23	平成30年度岡山市立岡山中央小学校外国語（英語）活動・国際理解活動公開授業研究会	指導課
10/24	教育長学校訪問	教育企画総務課
10/24	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/25	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課
10/26	岡山子どもESDフォーラム	指導課
10/27～28	自然体験リーダー養成講座 step3②	地域子育て支援課
10/29	教育長学校訪問	教育企画総務課
10/30	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課
10/30	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/30	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/31	教育長学校訪問	教育企画総務課
10/31	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課
10/31	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/31	特別支援教育の視点を生かした授業づくり実践研究公開授業	指導課
11/4	わくわく子どもまつり in 岡山ドーム	地域子育て支援課
11/5	教育長学校訪問	教育企画総務課
11/5	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課
11/5	平成30年度児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会	指導課
石井委員 指導課長	<p>○ 10月はたくさんあるが、子どもが輝く学びづくりプロジェクトの実施状況について、内容を教えてほしい。</p> <p>○ 10月は、ご指摘のとおり、小学校、幼稚園、中学校といろいろな学校で学びづくりプロジェクトを行った。一番大きな狙いである幼小中が一貫して教育を行うということで、連携して進めているところである。中学校、小学校がそれぞれの課題等を持ちながら、解決に向けてやっているが、感想を見ると特に中学校の授業改善が進んでいる。小学校のように問題解決学習が以前から定着しているのとはやや違って、中学校は先生がしゃべるといことが大変多かったが、いろいろなことに中学校は挑戦をし始めている、というところが特に今年度の学びづくりプロジェクトからはうかがえる。</p> <p>幼稚園、小学校についても、幼稚園の学びづくりプロジェクトに参加した中学校の教員からは、幼稚園、小学校の丁寧なかかわり方は中学校でも多く学ばないといけないというような感想が出ており、より一層中学校区の連携が進むとともに、それぞれ持ち帰って課題を解決しようとする方向に踏み込んで改善が図られていると感じている。</p>	
石井委員 指導課長	<p>○ 各中学校区でそれが進んでいるのは非常にいいことで、今日の教育総合会議に出ているいろいろな問題の解決にも中学校区単位で物事が共有されて進められていくのは非常にいいことと思っている。何か具体的な取り組みの事例で、参考になるものがあれば教えてほしい。</p> <p>○ それぞれがとてもおもしろい取り組みをしていて、中学校ではこれまで学力についてよりも生徒指導が対象になっていたが、実施要綱などを見ると、学力についてこういうことに取り組んだ、家庭学習を学年団がそろえて共有しながらやっていく、学力アセスの問題を問題集にまとめて宿題として出しているなど、子どもたちの学力に正面から向き合った取り組みが少しずつ見えてきていると感じる。そのような事例をしっかりといろいろな会で啓発しているところである。</p>	
藤原委員	<p>○ 関連してだが、学びづくりプロジェクトは本当に成果が上がりつつあるのではないかと思う。先月、学びづくりプロジェクトで三勲小の道徳に行ったときは、体育館で学区の小中学校の先生以外にも公開していたが、幼稚園の先生も含めて、すごく縦の線が感じられたので、やはり学びづくりプロジェクトを通して</p>	

指導課長	<p>ろいろな学校でそれができていることがそのうち力につながると感じた。</p> <p>今日の後半の総合教育会議の話題でもあると思うが、小学校から中学校へ行くときの不登校や問題行動は少し多くなる。これは、発達段階というのもあるが、先ほど言われたように、授業の仕方が小学校から中学校で違うということが少しは関係するのか。</p>
藤原委員	<p>○ 小学校、中学校の授業のやり方が違い、宿題の出し方なども全く変わってくるというようなことは、子どもたちにいいストレスになっている部分もあるが、過度のストレスになっているところもあると思う。足並みをそろえて宿題等についても、小・中である程度そろえていこう、指導方法についても、めあて、まとめをきちんとしようということはそういう意味も持っている。今まで、中学校は授業をするぞとやって始めていたものを、小学校でしているめあて、まとめを引き継いでやるというようなところも、小・中のつながりを考えてやっていることで、そのような過度なストレスは解消していけると思う。</p>
指導課長	<p>○ 課題解決、問題解決型の学習の仕方から、中・高へ行ってだんだんスクール形式のものが増えてくるということは、教科の特性などで仕方がないものもあるのかもしれないが、中1で過度のストレスを感じている子もいると思うので、学びづくりプロジェクトなどを通じて、そういう形式のことも話題にしてほしい。学びの縦軸は学区によっていろいろ研究されていると思うが、当たり前のことではつまづいている子もいると思う。</p>
石井委員	<p>○ 丁寧に段差のところは注視しておく必要があると思うので、指導方法、内容も含めて、過度なストレスにならないような段差になるように工夫していきたい。</p> <p>○ それに関連してだが、学力については今の説明からいうと、小学校がいろいろ先行して中学校がそれを取り込み利用するという形になっていて、一方で問題行動については中学校がどちらかという先行していて、小学校がそれをうまく小学校にも取り入れるような活動も始められているというように理解しているが、問題行動の小学校の部分について、中学校との連携がどうなっているか、教えてほしい。</p>
指導課教育支援担当課長	<p>○ その話題がきょう3時半からの総合教育会議に出てくると思うが、子どもの発達段階が違うので、中学校でやっていることがそのまま小学校で通じるかということ、そうではない。ただ、例えば暴力行為を起こさないための取組として、起きてからの対応はそうだが、起こさないための取組として、中学校でこういうふうに関心意識を育てようと思っている、というようなことは小学校の先生も知っていただいて、小学校段階でどういう取組ができるか、いい部分を取り入れるのはそうだが、やっていることを見て、小学校ではどうすべきなのかということを考えていただく。逆もそうである。そういうことがすごく意味があることだと思うので、そのような取組は既に先進的に、操山中学校区などは取り組まれている。例えば、中学生が小学校へ行って学習支援をするといったようなことは、発想としては魅力ある学校をつくっていこうという、いわゆる生徒指導的な取組からスタートしているが、中学生が小学生に勉強を見てあげるというところに行き着き、すごく効果があったという報告もあるので、学習指導や生徒指導だけではなく、いろいろな視点で中学校区がつながっているというのはすごく意味があることだと思う。</p>
藤原委員	<p>○ 最後の自殺予防に関する研修会の参加者は岡山市内がこのような人数で書いてあるが、その他はどこから来られたのか。</p>
指導課教育支援担当課長	<p>○ この自殺予防に関する普及啓発協議会というのは、昨年度からこの日にすることが決まっていた。主催は文部科学省で、全国を8つのブロックに分けて、その中でやってくださいということで、岡山市以外では他県の教育委員会の指導主事や小・中学校の教員の方々が参加をされている。</p>
藤原委員 指導課教育支援担当課長	<p>○ 参加した教職員は、小・中各学校で1人ずつということか。</p> <p>○ 岡山市の場合は、危機管理研修会とあわせての開催ということで、全ての学校に1人以上の参加をお願いしたが、この日は非常に忙しい日だったこともあり、</p>

藤原委員 指導課教育支援担 当課長	<p>欠席した学校もいくつかあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修内容は、すごく直接的なものなのか、理念的なものなのか。 ○ 新井肇先生という関西外国語大学の先生を講師に迎えて丸1日の研修だったが、理念的なことからスタートしてロールプレーやグループワークなど、いろいろなことですごく勉強になった。私も1日参加したが、子どもの自殺予防に関しては未然防止、危機介入、事後対応も未然防止につながるというお話も聞いた。また、子どもから死を遠ざけるのではなく、死について豊かなイメージを育てることによって現実の死を防ぐ、要するに最近の子は死に直面することが余りない、ほとんどない子もいる。そういう中で、学校教育の中でもしっかり死についての豊かなイメージを育てるようなことはすべきである。よく寝た子を起こすなどというような議論もあるが、このことについてははっきりと伝えていったほうがよいと先生は言われた。そのことによって、現実と非現実の区別の認識をさせ、多様で豊かな人間性に触れるタイミングやいろいろな人と交わることが必要というような意識を教員も子どもも持つことが大切だ。したがって、最終的にはレジリエンスという言葉が使われたが、危機に陥っても折れない心、イメージはしなやかな竹のような心を育てることが自殺予防にはすごく必要だと。最後は、矢巾町にこの先生は入られていた。守秘義務を我々に課した上で、矢巾町の課題、なぜ起きたのか、起きた後、対応はどうだったのかというようなことを実際に教えていただいたのはすごく参考になった。そのような研修だった。
藤原委員 指導課教育支援担 当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ あってはいけないが、全国的にどこでもありそうなことで、行かれなかった学校の先生方にどういうふうに伝えるかも教育委員会としては考えないといけない。また、豊かなイメージを持つということがびんとこなかったが、死について豊かなイメージといえば、どのように捉えたらいいか。 ○ 死んだときの気持ちである。誰かが亡くなったときの家族としての気持ち、グループワークでもしたが、中学生が亡くなった。そのときに、教員だったらどのように思うか、親だったらどのように思うか、親以外の家族、そのほかの子どもたちの親だったらどのように思うか、そのようなことを我々は大人としてのイメージを湧かせるためのグループワークをしたが、子どもたちも近い人が亡くなったときに、自分はどう思うか、自分が亡くなったら相手はどう思うか、そのようなことをイメージさせることが必要だという研修だった。
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉どおりの豊かなといえば、何かハッピーなイメージがしたが、そういう想像を膨らませるといことは、そういうことに陥らないことにもなるだろうし、さきほど言った折れない心、レジリエンスというのは自殺でなくても復元力的なことは子ども達に必要なので、ぜひそこから自殺予防だけでなく発展して、生徒指導やいろいろな道徳などへつなげていったらいいと思う。自殺予防だけで考えるのでは、その気になっていない人もいるかもしれないので、願います。
石井委員 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育長の学校訪問の状況を伺いたい。 ○ まず、5番の野谷小学校だが、ここは平島小学校ほどではないにしても、運動場一面が泥をかぶったということもあり、校長先生とは危機管理や災害対応の話になった。教育委員会もしっかり頑張ったが、地域の方が取り除いた汚泥を家から軽四を持ち出して片づけてくださるというような、非常に協力的な様子が浮かんできた。子どもたちも、そういう地域の方に見守られているという思いを強くした次第である。 <p>次に、8番の足守小学校では統廃合の話になったが、校長先生は、学校として蛍明小学校に行くことは難しいという肌感覚を教えてくださいましたが、足守からも強引にすると、ごっそり高松中学校に抜けてしまう可能性もあるというような話もあり、なかなか厳しいと思った。</p> <p>次に、13番の岡山中央中学校であるが、ここでは、校長先生の積極的な思いとして、若手をかなりとっている。新採用の先生を続けて採用したということもあり、若手教員の育成についての話が主であった。たくさんとり続けたために、今度は指導する先生がいなくなるので、バランスよくやっていかないといけない</p>

	<p>という話もあったが、若手の先生は仲間も多く、積極的に発言する先生もいて非常に活気があると感じた。</p> <p>次に、建部中学校だが、ここは各学年1クラスずつしかない学校である。3つの小学校から来るが、とても小さい小学校なので、中学校も1学年が1クラスしかない。つまり、先生が何教科も見たりする。そういう小規模、極小規模校での苦勞を見させていただいたが、技術家庭の先生が小学校に行くなど小・中連携もしている。また旭川ダムに近く、災害のときのダムの放流についての話になったが、校長先生がダムの責任者の方からは精いっぱいのことだったという話を聞かれていた。</p> <p>最後に、旭東小学校は少し6年生がざわざわとしていたが、一時期1学年3クラス、4クラスあった学校が今は100人余りの小さな学校になって、どちらかというと、学力というよりもとにかく毎日学校へ楽しくきてほしい、不登校を少なくするというところに力を入れているというような話をされていた。基本的には、旭東小学校も私がいた時の平井小学校もそうだが、みんな前向きに勉強に取り組んでいることは感じた。</p> <p>全般的に言うと、学力向上と問題行動の防止及び解決という教育大綱の2つの指標、目的が本当に校長先生や管理職の先生だけではなく、繰り返しになるが、教室の中に入っている先生たちがそれぞれ一生懸命取り組んでいるのを感じ取った学校訪問である。</p>
石井委員	○ 教育大綱の取組が伝わっているだけでなく、それプラス各校の状況、課題がそれぞれ本当にさまざまあるということに改めて感じた。
藤原委員	○ 20番の特別支援教育の視点を生かした授業づくりは、小学校では多く聞かせてもらったことがあるが、中学校の授業づくりは、どのような感じだったか。
指導課教育支援担当課長	○ 当日の美術と理科のものを用意してきたので、お配りする。ここにはないが音楽もある。これはワークシートで、その下に指導案がついている。この研究は平成22年度からスタートしたもので、特別支援の視点、支援を必要とする子が学びやすい授業をつくっていき、そうすれば全ての子どもたちが学びやすい授業になるのではないかと研究である。大学の先生に2年間継続して入っていただいて、2年かけて全ての子どもが学びやすい授業をつくっていく。ワークシートだけではなく、ワークシートがちょうど板書とリンクをして子どもの思考に沿った学びになる。美術は彫刻作品の鑑賞ということで、弓を引くヘラクレス、ヘラクレスの気持ちになってみようなど、ワークシートを使ってみんなで話をしていく。理科は光の進みぐあいの実験だが、反射について考えていくときに、ワークシートなどを駆使して話し合い、学び合いの学習を進めていく。そのような授業のユニバーサルデザイン化を進めていくことを目的としている。いろいろな教科の先生がいろいろな視点で、全く理科とは関係ない体育の先生がこの部分がかかった、これは体育でも使ってみようといったようなことを発表され、また美術についても同じような意見が出て、研究協議がすごくおもしろかったという報告を受けている。
藤原委員 指導課教育支援担当課長	○ このような授業は先ほどの大学の先生など、専門の方をお呼びしているのか。 ○ 年5回までだが、2時間程度、学校に来ていただいて、授業、ミニ研究会などを開く、あるいは指導案検討は大学まで行く。岡山中央中学校でノートルダム清心女子大学の青山先生に関わってもらっていたので、研究室へ行って指導案の研究をするなどのやりとりを2年間続けた成果がそれである。
藤原委員	○ その教科の専門はもちろんのこと、発達障害の専門の方が入ってくださるというのはとても深まる。中学生は小学生よりももっと乖離している幅が大きいと思うので、ぜひそういうことをたくさんしてほしい。 参加者41人というのは38中学校の1人ずつか。
指導課教育支援担当課長 藤原委員	○ この41人は多くは岡山中央中学校区の先生方である。また、ノートルダム清心女子大学の学生も数人来るなど、様々な参加者であった。 ○ 先生方の働き方や、授業中は出られないということもあると思うが、実際に教

教育長 全委員 教育長	<p>えている中学校や小学校の先生がたくさん参加できると広がるだろうし、ぜひ、そうあってほしい。</p> <p>○ よろしいか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ では、事業報告を終わる。</p>
7 議事の概要	
教育長 全委員 教育長 教育長 全委員 教育長	<p>○ 11月岡山市教育委員会定例会を開会する。 傍聴希望者はいない。 日程第1、会期について、本日1日限りとしてよいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 日程第2、10月の定例会の議事録があるので、問題がなければご署名願う。 日程第3、事業報告について、何か質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)</p> <p>○ 次に、議事に入る前に会議の公開、非公開について諮る。 日程第4の報告第23号及び24号は、教育事務に関する議会の議案等についての市長への意見の申し出に関する事項として、会議規則第7条第1項第3号に該当するため、非公開としたいが、委員の皆さんはいかがか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 日程第4の報告第23号及び24号は非公開と決定する。</p>

傍聴の状況		
報	道	0名
一	般	0名

平成30年11月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成30年11月20日（火）		
2 開会及び閉会	開 会	13時30分	
	閉 会	13時50分	
3 出席委員	教 育 長	菅 野 和 良	
	委 員	藤 原 佳 代 子	
	委 員	石 井 希 典	
	委 員	妹 尾 直 人	
	委 員	片 山 美 香	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	安 田 充 年	教育次長	三 宅 泰 司
次長（教育総務部長兼務）	吉 實 達 男	学校教育部長	岡 林 敏 隆
生涯学習部長	重 松 浩 二 郎	参事 （教育企画総務課長事務取扱）	村 田 守
学校施設課長	板 野 正 博	岡山っ子育成局子育て支援部 こども企画総務課長	出 原 晋 一 郎
岡山っ子育成局保育・幼児教育部 幼保運営課長	疋 田 洋 一		
事務局（教育企画総務課課長補佐）	生 田 裕 宣	事務局（教育企画総務課係長）	松 原 琢 磨
5 議題及び結果			
報告第23号	専決処理の報告（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）	承 認	
報告第24号	専決処理の報告（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）	承 認	